

第 6 回益城町まちづくり専門委員会【議事概要】

開催日時：平成 30 年 9 月 20 日（木）15:00~17:00

開催場所：益城町役場仮庁舎 別館 2 階会議室

出席者数：10 名（※大雨洪水警報発令による災害対策本部設置により、各課長は途中退席）

議事次第：

1. 開会
2. 挨拶
3. 議題
 - ① 第 5 回まちづくり専門委員会の振り返り
 - ② 復興まちづくり計画【避難路・避難地編】の今後の方針
 - (ア) 避難路・避難地の計画への位置付けと導入機能の検討について
 - ③ 避難路・避難地の追加及び変更
 - (ア) 蛭子町地区（追加）
 - (イ) 内寺地区（追加）
 - (ウ) 広崎地区（追加）
 - (エ) 安永地区（追加）
 - (オ) 上陳・下陳・北向（変更）
 - (カ) 福富地区（変更）
 - (キ) 上小谷地区（変更）
 - ④ 事業進捗状況について
 - ⑤ その他
4. 事務連絡
5. 閉会

【議事概要】

1. 開会
2. 挨拶
 - 宮崎委員長より挨拶がありました。（以下、概要）
 - 大変天候の悪い中、お集まりいただき感謝申し上げます。
 - 前回委員会から約 2 ヶ月経過したが、この間に、現在立ち上がっている全てのまちづくり協議会からの提案書が提出されている。
 - 現時点で 24 のまちづくり協議会が立ち上がっており、本日をもってその提案書の審議が一巡することとなる。
 - また、復興まちづくり計画に掲載されていない避難路・避難地については、今後どのような方向でどのような検討をしていくかについても、本日は議論していただければ幸い。

- 事務局からの会議運営の説明
 - 本日の議事は原則公開とする。

3. 議題

① 第5回まちづくり専門委員会の振り返り

- 事務局より、資料2（～P4）を説明。
- 各委員よりご意見等をいただきました。（以下、概要）
 - まちづくり協議会が立ち上がっていない地域の避難路・避難地について、どうにか組み込むことはできないか。
 - ✓ まちづくり協議会が立ち上がっていない地域もそうだが、立ち上がっている地域でまちづくり提案書を提出し、復興まちづくり計画に未掲載の避難路・避難地もある。それらをどのように拾っていくのか。今後、補助事業の認可見込みがあまり望めないで、町の単費で整備していくというのは厳しい。
 - 平成32年度までは大丈夫とのことだが、それまでに立ち上がっていれば大丈夫なのか。
 - ✓ 全国的に災害が多くなっている状況の中、平成32年度までの見込みがあるとはいえ、そのことさえも怪しい状況。
 - まちづくり協議会で提案数等などがバラバラのように感じるが、説明は統一されているのか。
 - ✓ 市街地部と集落部でコンサルが違うが、内容に齟齬が生じないよう、内容共有会議を行った上で各地域に入っている。よって説明に違いはないし、不平等はないという理解。

② 復興まちづくり計画【避難路・避難地編】の今後の方針

(ア) 避難路・避難地の計画への位置付けと導入機能の検討について

- 事務局より、資料2（P5～P6）を説明
- 各委員よりご意見等をいただきました。（以下、概要）
 - これまでは、ハード整備を中心に議論をしてきた。今後は、要援護者をどのように誘導するか、避難路を複数ルート検討するなどのソフト面を考慮していく必要があると考えている。
 - まちづくり協議会の中には、まだハード面を検討している地域もあるが、今後はそのような地区もハード・ソフト両面で進めていくということか。
 - ✓ 主にソフト面に重点を置きながら進めていきたいと考えている。
 - 具体的なソフトの内容は、地区防災計画のようなものを地区の中で作成していくことになるのか。10月末に防災訓練などがあるが、各地区でも考えていくのか。防災訓練だとなかなか住民が集まりにくいので、そのことも踏まえて検討していかないといけないと思う。
 - ✓ まちづくり協議会の中で、地区資源の再発見という観点でまち歩きを実施して

いるところもあるが、それを防災の観点でまち歩きを実施していきたいという地区もあった。このように、少しずつ意識をソフト面へと促していきたいと考えている。

- ハード面ができていない地区は優先的にハード。ソフトに切り替えられる地区は切り替える。地域の人が話し合っ、何が優先で、何が不足しているかという協議が必要。自主防災組織も地区単位でできればいいのだが、全てがそうはいかない部分もある。安全安心な生活が第一の目的。
- まちづくり協議会に参加しているが、他の協議会がどのような盛り上がりをしているのか知りたい。平田・柳水地区は様々な話が膨らみ盛り上がってきている。また、これらは押し付けてはできないもの。
 - ✓ 地域活性化の活動でいうと、平田地区と榎島地区が群を抜いている。地区によっては復旧工事がまだできていない地区もあるので、まだそのような検討に入れないということもある。どこが良いなどではなく、実情に合わせて動いている状況。
 - ✓ 地区の特性に合わせて皆さんで話し合っていくしかない。安永地区は約1,500世帯あり、区長会もあるが、区長会はまちづくり協議会の分会としている。広安荘も分会として位置づけている。大きい組織なので、下部の意見を見られているのかという疑問はあるが。
- 今までのソフトの活動を一覧表にまとめると見やすく良いと思う。
 - ✓ 赤井地区の防災訓練のやり方は、防災訓練後の流れで地区のお祭りをされていて、やり方としてはとても良いと思った。
 - ✓ やはり人を集めることが大変。また、大変と思われたら集まらなくなる。
 - ✓ それがとても難しい。砥川地区はそれで集まらなくなってきた。避難路・避難地を確実に、ということで当初は集まっていたが、WS方式で進めていたので、時間がかかって休止となった。
- 安永地区では、神社とまちづくり協議会が共同で祭りを開催した。従来ある組織を動かして、それをまちづくり協議会が応援するという方法もある。

③ 避難路・避難地の追加及び変更

- (ア) 蛭子町地区 (追加)
- (イ) 内寺地区 (追加)
- (ウ) 広崎地区 (追加)
- (エ) 安永地区 (追加)
- (オ) 上陳・下陳・北向 (変更)
- (カ) 福富地区 (変更)
- (キ) 上小谷地区 (変更)

- 事務局より、資料2 (P7~P14) を説明

④ 事業進捗状況について

- 事務局より、資料 2（P15～P36）を説明
- 各委員より、ご意見等をいただきました。（以下、概要）
 - 約 24 億円を確実に着工するためには、各まちづくり協議会が協力していかないと、町職員だけでは無理がある。各地区の調整は是非とも地域でしていただきたいと考えている。各まちづくり協議会の会長を一堂に集めて話し合いをしていくということも大事。
 - 進捗状況の避難路に関しては、幅員を記載していただくことより分かりやすい。

⑤ その他

- 事務局より、資料 2（P37～38）を説明
- 各委員より、ご意見等をいただきました。（以下、概要）
 - 防災施設のうち、水とトイレは全箇所最低必要と思うので、検討をお願いします。

4. 事務連絡

- 本日の審議により、現時点で立ち上がっている全てのまちづくり提案書の避難路・避難地に関する審議は一巡したことから、復興まちづくり計画の更新を行い、各委員へ送付させていただく。
- 次回の委員会は、本日議論いただいたソフト面に関する進め方を検討させていただきたいと考えている。日程については改めて連絡する。

5. 閉会

以上